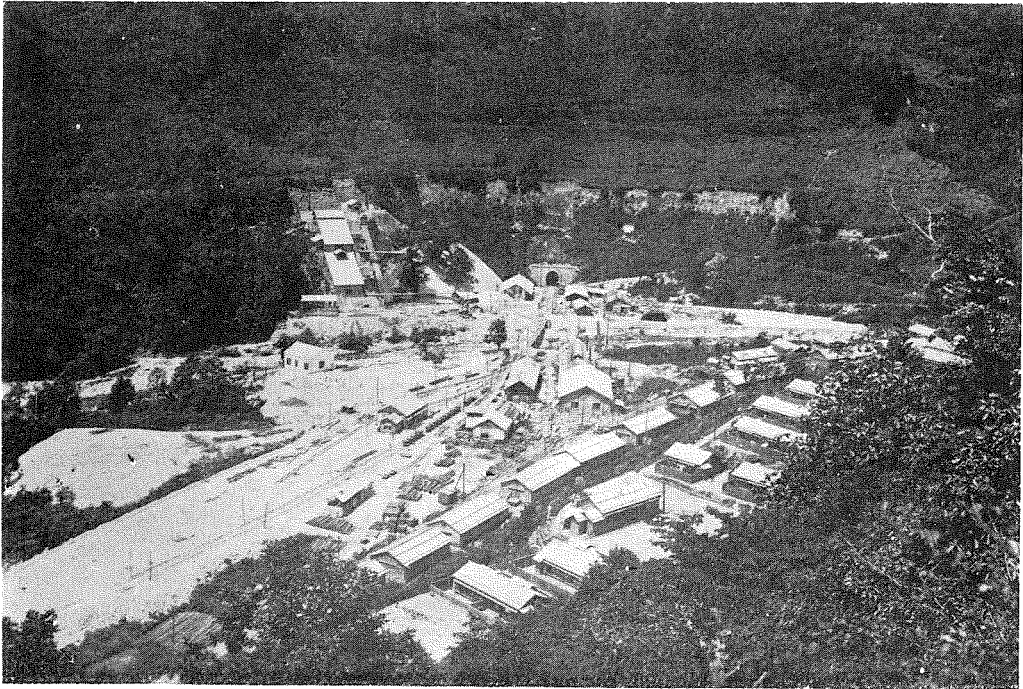


(2) 上越南線清水トンネル工事土合口(南口)全景



(2) General View of South Portal of Shimizu Tunnel 6½ Miles Long, Heading at 2,000ft.

清水トンネル

清水トンネルは上越南線と上越北線とを連絡して、清水峠を貫く延長六哩餘の日本第一の長隧道であり、其工事設備が從來に類例のない日本としては完全なものであり、又工事方法が請負でなく鐵道省直轄工事である點に於て有名なものであります。

寫眞の中央に小さくトンネル坑口が見える之が上越南線清水トンネル土合口で、此坑口から現在 8,360 尺(七月廿一日)掘進んでをる。

坑口の上は清水峠の山腹で往古其儘の森林に包まれ、峠の谷間には夏も處々白雪を見る、坑口の左の建物は砂利と砂のプラントである。坑口の直ぐ前は利根川の上流、湯比曾川で、其手前の多くの建物は倉庫や原動機室や鍛冶工室や官舎其他の舎宅である。

七月二十一日現在のの上越南線土合口の累計

進行尺は導坑に於て 8,360 尺で、従業人員は晝夜で約 700 人、日下一日の平均進行尺は 12 尺である。

新聞などでもトンネル工事は大分世間染みて人馴れて來た。實際其坑内の工事も今日の發達した設備で進めるから日醒ましい進行を示す様になつた。

然しまだまだ日本のトンネル工事には改良すべき餘地が澤山あります、坑内の工事が單純なる丈に注意と研究の行届かない點があります。

機械設備が多くなればなる程、益々其所には専門的な熟練工を要します。トンネル工事としては歐米先進國も現在行詰りの状態に在るから、日本が之を超越するのも遠い事ではないと思はれる。